

漢法苞徳塾資料	No. 273
区分	診断論・脈診
タイトル	脈診の指さばき：テキスト脈診法の基礎
著者	八木素萌
作成日	

◎脈診の眼目は、第一に脈状を把握する事にある、これは脈状表に記入するが、十二脈を弁別することから始まる。中指中央を正確に関部中央に当てること、そして菽法の各段階の深さで診る、こうして胃の気の欄と、脈の来至・去退の欄ともに記入できる。それから六部定位比較脈表に記入できるように診脈する。

脈を構成している要素は、

- 1：筋肉の弾力性
- 2：脈管の弾力性
- 3：液圧——心の拍出力と負圧

である。脈診とはこの三要素が統合された状態を弁別することである、したがって指の当て方は形式にこだわる必要はない。

表に記入できるように脈を弁別することこそが大切である。例えば菽法を例に考えると三つの方法がありうる、

- イ：浅いところから暫時深くする。
- ロ：脈が一端消えるほど強く圧してから、心もち指を浮かべて15菽の深さの脈を確認しそこから暫時指を浮かべながら五段階に摂る。
- ハ：もっともハッキリと感知できる脈の深さが菽法上のどこの段階かを察して判断する等である。

どの方法が診察する者にとって最も都合よく脈を弁別できるかによって、その人にその人に合う方法を採用すればよい。

◎ハ図の如き脈は、やや浮数滑で明らかに太い脈そしてやや軟弱な脈と言うことなる。

浮沈は菽法と対応し、数遅は一息4～5拍を平とし、6拍は微、7拍は明、8拍以上は甚となり、3拍は微、2拍は明、1拍以下は甚となる。

長短は関上の中指腹に感知できる状態によって判断する、指腹中央に至る脈を平とし、長はそこを越えて長いもの、短は平位に達しないものとする。

太細は糸やシャープペンシルの芯、妻楊枝、ボールペンの替え軸、糸、等をイメージしてさだめる。中脈の深さ（最もはっきりと脈を感知できる深さ）で長短・太細・実（緊張している）虚（軟弱である）・滑濇を診る

◎初心のうち、なるべく簡単にして把握するとよいので図示しておく、全て単純な陰虚の場合である。二図である。問題のある箇所を「・」印で記す。

◎六部定位比較脈診表の記入

- ◆既に関前一分での左右の比較によって大凡の見当はついている。また菽法でも大凡の見当はついている。従って六部定位の比較によって、それを更に詳しく診るのである。また浮沈、寸部と尺部との対比や脈状等で、病の陰陽は診分けている。八虚診や蒙色、尺皮診でも病を診分けている、そこで六部定位法で浮（腑・陽）・中（胃の気）・沈（臓・陰）を区分すること、及び十二経脈の虚実を診分けるのである。
- ◆脈状診は病因・病臓や三陰三陽的な或は五臓論的な病位を示し、六部定位比較脈はその病の経絡的・三焦論的な変調を示す、したがってそれは用経を指示するものである。
- ◆脈診の結果と他の診法とを絶えず比較して参照して判断する習慣を身につけるようにしなければならない。腹診・舌診・蒙色診・問診・切経診（八虚診・擦診も含む）・運動診・尺皮診等のことである。尺皮診は脈診と矛盾しない。六部定位脈診と同様に切経診・運動診・腹診の一部（経絡変動を診る方法の部分）、望診の一部は経絡の消息を捉えるものである。脈と証を対比して不一致（矛盾）があれば、相剋的（微邪・賊邪）であるか、相生的（実邪・虚邪）かを、矛盾が無い（正邪）かを診別しなければならない。この区別は治法と予後判別上に不可欠である、証は問診・腹診・蒙色診等で判定した五臓の弁別であり、脈とはこの場合は、脈状判別による五臓の区分である。
- ◆補瀉の決定は病の虚実に拠り、六部定位脈に拠らない。
- ◆胃の気の脈の記入；中脈が浮位なら上、沈位なら下、中位ならば中を○で囲む。  
堅・平・弱も、太・平・細も同じ要領。  
奥行とは中脈を感知できる深度の度合であり・幅である、浅い部位から深くし、深部から浅くして、という具合に、中脈が感知できる範囲を探り、大・中・小の該当する部を○で囲む。
- ◆関前一分脈の記入；~~左>右、~~左<右、左>右~~、左<右~~、のように記入する。  
「~~」「~~」印は脈位である。
- ◆体表に露出して見易い静脈の太さを観察して、その人の脈管の体質的な太い細いを推定し判断する事ができる。

イ図 脈状表

	甚	明	微	平	微	明	甚
浮							沈
数							遲
長							短
太							細
実							虚
滑							濇

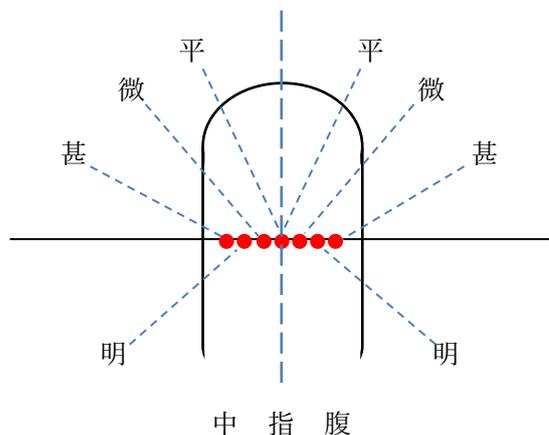
ロ図 六部定位表

	左	右
-----	寸	-----
-----	関	-----
-----	尺	-----

ハ図 記入例

	甚	明	微	平	微	明	甚
浮			●				沈
数			●				遲
長				●			短
太	●						細
実					●		虚
滑			●				濇

ホ図 長短図



ニ図 略式の例

